

廃棄物処理事業者との意見交換会の結果

第10次千葉県廃棄物処理計画策定の参考とするため、令和2年11月に廃棄物の処理業者と意見交換会を実施しました。

廃棄物処理業者からの主な意見等の概要は以下のとおりです。

1. プラスチック類の処理について

- ・ プラスチック類の一括回収は問題ないと思うが、硬質プラと軟質プラを分別する機械が違うので改修が必要になる。今の許可内容の範囲ではできなくなる。
- ・ プラスチックの分別では、リチウムイオン電池の混入による発火事故が増加しており、業界団体では、国に対して排出事業者への分別排出の徹底を指導することやリチウムイオン電池の危険性を周知することなど要望している。
- ・ 塩化ビニルの焼却可能な施設は老朽化が進んでおり、炉の整備が課題。

2. 建設系副産物について

- ・ 千葉県では、積替保管施設には自社搬入・自社搬出のルールがあるため、少量の積替・保管でも他社からの持込を受けることができない。分別されたものは受入可能とし、その後は通常の処理ルートに流すような形が望ましい。
- ・ 石膏ボードにロックウールやモルタルが付着しているものはリサイクルが難しい。

3. 食品ロスとバイオマス資源の活用について

- ・ 20年くらい前に堆肥化を始めた人は施設の更新時期を迎えているが、継続的な肥料の売り先が見えず廃業する方が多い。さらに、来年4月から動物性由来のものは熱のかけ方が変わってくるため、飼料化の事業者は設備投資に不安を感じている。
- ・ メタン発酵施設はある程度量があればバイオガスを発電やバイオガスとして使えるが、最初の投資の部分がが高いのが課題である。
- ・ 食品リサイクルに関しては、県と市町村が一緒に考えてリサイクルループを形成して、リサイクル業者とリサイクル製品を利用する事業者の仲介役を担ってほしい。また、湿式のメタン方式が乾式系になれば、生ごみだけでなく事業系の紙や汚い段ボールも処理できるので、違った意味で清掃工場の縮小も可能になるのではないかと。

4. 家電（小型を含む）リサイクルについて

- ・ 近年はプラスチックや電池の処理などの問題があるので、ある程度処理費を徴収しないと事業が成り立たない。

5. 処理困難物（太陽光パネル、医療系廃棄物）について

- ・ 海外製が8割でメーカーも引き取らない上、災害の場合の太陽光パネルは状態がひどく、リサイクルできない。ガラスとセルを分別できれば、リサイクル可能だが今は分別技術が十分ではなく、投資してまで行う排出量があるかという点も問題がある。
- ・ 医療系のごみ処理は他の処理と比べて逼迫している。

6. 産廃施設での一般廃棄物の受け入れ、市町村との連携について

- ・ 市町村が収集すれば民間施設は受け皿になりえる。市町村の粗大ごみは木くず系と金属系だが、民間の施設にはそれぞれ得意とする処理対象があるため、それをどうするかが課題である。
- ・ 産業廃棄物を扱う施設では一廃を受け入れる余地はある。廃棄物が減少しており、合わせてやる方が効率も良い。

7. 災害廃棄物の広域処理について

- ・ 昨年の災害では現場である程度分別したので、第一仮置場、第二仮置場など大掛かりに設置しなくても短期間で処理することができた。民間施設と公共施設をうまくコラボさせる方法を整理しておくともっと良い。
- ・ 災害廃棄物は一般廃棄物となるため、産業廃棄物の処理施設を活用しきれないものもあった。災害廃棄物として、どちらの施設でも処理できるような扱いにして欲しい。
- ・ 塩と泥が付いた災害廃棄物の処理は困難であり、どう処理するかというのが課題である。

8. 公共関与による最終処分場の設置について

- ・ 災害が起きた場合には大量に入ってくる。公共とか民間ではなく早めに整備して欲しい。
- ・ 千葉県内では、処分場ができる余地がない。優良な処分業者を育ててほしい。